

大正五年四月

支那人癩病患者送  
還方ニ関スル件

一九

外務省

大正五年四月廿八日 東京 東洋汽船株式会社

東京 東洋汽船株式会社

東京 東洋汽船株式会社

東京 東洋汽船株式会社

東京 東洋汽船株式会社

第 三 號

三 號

東洋汽船株式会社

東京 東洋汽船株式会社  
東京 東洋汽船株式会社  
東京 東洋汽船株式会社

東京 東洋汽船株式会社  
東京 東洋汽船株式会社  
東京 東洋汽船株式会社  
東京 東洋汽船株式会社  
東京 東洋汽船株式会社  
東京 東洋汽船株式会社  
東京 東洋汽船株式会社  
東京 東洋汽船株式会社  
東京 東洋汽船株式会社  
東京 東洋汽船株式会社

大正五年四月廿八日記録第一部接受

大正五年四月廿三日

3-2140



第 號

二 派

東洋汽船株式會社

東洋汽船株式會社  
船務部

廿四日朝在洋濱船場開航

紀洋丸、二十二日由帆立由

但し、腹痛患者あり乗航

せし、大抵、各々、未だ、回復、なし

大正五年四月廿八日記録第二部接受

大正五年四月廿二日

船務部  
船務部  
船務部  
船務部  
船務部  
船務部  
船務部  
船務部  
船務部  
船務部

G 43 A (17-1'16-10M)

TOYO KISEN KAISHA  
Yokohama

TELEGRAM SENT TO Grace & Co., Lima

No.	Address: Grace, Lima	Sent: April 22, 1916	Code.	By.
-----	----------------------	----------------------	-------	-----

Transportation refer Kiyo Maru we have requested  
Foreign Department protest through Japanese Consul,  
however if delay sailing expected notify Consul  
and accept them under protest, Toyokisen.

3-2140

0020

電報

大正五年四月廿二日起草  
同年 月 日 附

送第 號

主管通商局長

主任

電話 一四九七號  
五年四月廿二日七時十分發

電信案

在里馬

森領事宛

外務大臣

才五号

和露政府四月廿二日 Calapa 出帆、紀洋

丸、香港行支那人癩病患者四名、

外務省

大正五年四月廿二日

乗船セシメサハ出港ヲ許ラセスト称シ居ンタメ

出帆遅延ノ虞アリトシ又之ヲ乗船セシムルハ半國

移民法ニテハ聖地牙哥港ノ際四百弗ノ罰金ヲ課

セラル、~~本領事~~ 本領事 韓族方東洋渡航會

社ヲ東南亞事 韓連 類出タリ、至急右

事情ヲ調査、上 韓 不法ノ要求タル於テハ

之ヲ撤回シ必要ナル助力ヲ全船ニ与ヘシム

第14門第  
1329

次  
106  
107

# TOYO KISEN KAISHA

(ORIENTAL STEAMSHIP COMPANY)

## SOUTH AMERICAN LINE

(SCHEDULE No. 8-B, 1916-1917)

ISSUE OF APR. 1st, 1916

Superseding all issue to Date

FLEET:  
 S.S. "ANYO MARU" 18,500  
 S.S. "KIYO MARU" 17,200  
 S.S. "SEIYO MARU" 14,000

Voyage	PORTS	LEAVE ARRIVE	A.M. or P.M.	STEAMERS						
				KIYO MARU Voy. 13.	ANYO MARU Voy. 6.	SEIYO MARU Voy. 6.	KIYO MARU Voy. 14.	ANYO MARU Voy. 7.	SEIYO MARU Voy. 7.	KIYO MARU Voy. 15.
OUTWARD	Hongkong	Leave	P.M.	—	Mar. 11	May 11	July 11	Sept. 12	Nov. 9	Jan. 9
	Moji	Arrive	A.M.	—	—	16	16	17	14	14
	"	Leave	A.M.	—	—	18	18	19	16	16
	Kobe	Arrive	A.M.	—	27	19	19	20	17	17
	"	Leave	P.M.	—	28	20	20	21	18	18
	Yokohama	Arrive	A.M.	—	30	22	22	23	20	20
	"	Leave	P.M.	—	Apr. 1	21	25	26	22	23
	Honolulu	Arrive	A.M.	—	15	June 7	Aug. 8	Oct. 10	Dec. 6	Feb. 6
	"	Leave	P.M.	—	15	7	8	10	6	6
	San Francisco	Arrive	A.M.	—	27	19	20	22	18	18
	"	Leave	P.M.	—	29	21	22	24	20	20
	Los Angeles (San Pedro)	Arrive	A.M.	—	May 1	23	24	26	22	22
	"	Leave	P.M.	—	2	24	26	27	23	24
	Salina Cruz	Arrive	A.M.	—	10	July 3	Sept. 4	Nov. 4	Jan. 1917 1	Mar. 5
	"	Leave	P.M.	—	10	3	4	4	1	5
Balboa (Panama)	Arrive	P.M.	—	16	9	10	10	7	11	
"	Leave	P.M.	—	18	11	11	12	9	12	
Callao	Arrive	P.M.	—	24	17	17	18	15	18	
"	Leave	P.M.	—	28	21	21	22	19	22	
Arica	Arrive	A.M.	—	June 3	27	27	28	25	28	
"	Leave	P.M.	—	3	27	27	28	25	28	
Iquique	Arrive	A.M.	—	4	28	28	29	26	29	
"	Leave	P.M.	—	4	28	28	29	26	29	
Valparaiso	Arrive	P.M.	—	8	Aug. 1	Oct. 2	Dec. 3	Jan. 30	Apr. 2	
HOMeward	Valparaiso	Leave	P.M.	Apr. 5	June 10	Aug. 3	Oct. 4	Dec. 5	Feb. 1	Apr. 4
	Iquique	Arrive	A.M.	13	18	11	12	13	9	12
	"	Leave	P.M.	17	21	13	15	16	11	15
	Callao	Arrive	P.M.	21	25	17	19	20	15	19
	"	Leave	P.M.	22	26	18	20	21	16	20
	Balboa (Panama)	Arrive	P.M.	29	July 3	25	27	28	23	27
	"	Leave	P.M.	30	4	26	28	29	24	28
	Salina Cruz	Arrive	A.M.	May 5	10	Sept. 1	Nov. 3	Jan. 1917 4	Mar. 2	May 4
	"	Leave	P.M.	6	10	1	3	4	2	4
	San Francisco	Arrive	A.M.	16	20	12	13	14	13	14
	"	Leave	P.M.	18	22	14	15	16	15	16
	Honolulu	Arrive	A.M.	23	Aug. 1	24	25	26	25	26
	"	Leave	P.M.	29	1	24	25	26	25	26
	Yokohama	Arrive	A.M.	June 14	17	Oct. 12	Dec. 12	Feb. 11	Apr. 12	June 12
	"	Leave	P.M.	18	21	16	16	16	16	16
Kobe	Arrive	A.M.	20	23	18	18	18	18	18	
"	Leave	P.M.	22	25	20	20	20	20	20	
Moji	Arrive	P.M.	23	26	21	21	21	21	21	
"	Leave	P.M.	25	28	23	23	23	23	23	
Hongkong	Arrive	P.M.	30	Sept. 2	28	28	28	28	28	

Subject to change without notice and passengers should ascertain from the Company's agents at ports, the exact date and hour of departure.

HEAD OFFICE:—Tokyo, Japan.

Telegraphic Address "TOYOKISEN."

GENERAL OFFICE:—Yokohama.

Hongkong.  
Toyo Kisen Kaisha, King's Building.  
Moji, Japan.  
Mitsui Bussan Kaisha.  
Kobe, Japan.  
Toyo Kisen Kaisha, No. 83, Kyo-machi.  
Honolulu, T. H.  
Castle & Cooke, Ltd.  
San Francisco, Cal.  
Toyo Kisen Kaisha, Merchant's National Bank Building, 624, Market Street.

San Pedro, Los Angeles.  
The Southern Pacific Co.  
Manzanillo, Mexico.  
Felman F. Gurza, National Railway of Mexico.  
Salina Cruz, Mexico.  
Guillermo Quijano  
Tehuantepec National Railway Co.  
City of Mexico.  
N. Kobayashi  
Balboa, Panama.  
Panama Agencies Co.  
Lima, Peru.  
W. R. Grace & Co.

Callao, Peru.  
W. R. Grace & Co.  
Arica, Chile.  
Nitrate Agencies.  
Iquique, Chile.  
Nitrate Agencies.  
Valparaiso, Chile.  
W. R. Grace & Co.  
Coronel, Chile.  
W. R. Grace & Co.

Grace Lima advise Peruvian Government threatens refuse clearance S.S. Kiyo Maru sailing Callao Apr. 22 unless we accept four Chinese lepers Hongkong. We declined acceptance if on board arrival San Francisco authorities will fine us 400 dollars U.S. gold. In order avoid delay sailing request Foreign Department cable Japanese Consulate to protest give instructions Grace Lima direct Grace San Francisco advising Lima you are handling?

電信課長 左

大臣 石井

次官 十位

三十四七九 晴

臣馬愛 大正五年四月廿二日 辰六、〇〇  
本指者 廿三日 七、一五

石井外務大臣 森 領事

政務

通商 田

茅四院

人事

會計

文書

參政官

副參政官

大正五年四月廿八日記録第一部接受

黄電 茅四考、因之秘露政府衛生局長が同國  
移民輸送規則ヲ根據トシテ純洋丸侵之依リ香  
港迄支那人癩病患者四名ノ送還ヲ代理店ニ對  
シ命セシトセシ形跡ヲシテ該船ノ出帆ヲ差止メ  
ントセシ事實ハ確實ニ認メ難シ該船ハ二十日  
午後既ニ當領事館ノ斡旋ニ依リ右患者ヲ搭  
載セシテ出港免状ヲ得同時ニ積荷ヲ終シ

翌朝十一時半出帆セリ  
右患者送還ノ件ハ安洋丸便送ニ兩當事者間  
ニ於テ無事解決ノ見込ナリ右規則ニ関シテハ  
調査ノ上郵報ス

0023

3-2140

廿四日  
本電信ヲ  
ハラシス  
シテ  
添紙  
付ス

大正五年四月廿二日  
午後六時  
石井外務大臣  
森領事

井白流

黄電事申事、関之秘露、衛生局長が用南  
移民輸送規則ヲ根據トシテ、約洋九使、  
港近支那人癩病患者申事ノ送還ヲ代理店ニ  
命セントセシ形跡アリ、ニ、總務局出港ヲ差止メ  
ントセシヤ、  
午後既ニ當領事館ニ、  
載セヌシテ出港免状ヲ得、  
積荷ヲ終、

翌朝十一時半出帆セリ  
送還者送還ノ件ハ、  
ニ、  
調査ノ上郵報ス



Mr. Haruhiko Hirayama

第

二號

東洋汽船株式會社

東洋汽船株式會社

印

印

長崎 藤野 藤野

外務省通商局長

坂田重忠 叩服

拝啓 貴社より清修、飯多等、諸君を以て紀洋  
丸初航、本、カイヤル、諸君、於て、飛鳥、之、那、人、之、家  
運搬、ヲ、拒絶、ス、ル、件、之、關、シ、一、時、讀、地、事、業、領  
事、館、に、以、て、貴、方、の、依、頼、ヲ、以、て、不、可、避、可、之、事、  
讀、之、以、以、所、爲、下、等、諸、君、之、爲、也、之、日、程、に、以、て、  
讀、之、以、以、所、爲、下、等、諸、君、之、爲、也、之、日、程、に、以、て、  
讀、之、以、以、所、爲、下、等、諸、君、之、爲、也、之、日、程、に、以、て、  
讀、之、以、以、所、爲、下、等、諸、君、之、爲、也、之、日、程、に、以、て、

大正五年四月廿八日  
大正五年四月廿八日記録第二部接受

3-2140

0025

第 一 號

東洋汽船株式會社

東洋汽船株式會社



外務省通商局長

長 磯田重次郎

坂田重次郎殿

拝啓 貴社より清國へ向する航路の改良に御注意を蒙り、誠に御座り申す。茲に、貴社より清國へ向する航路の改良に御注意を蒙り、誠に御座り申す。

私岡 幸作

東洋汽船株式會社

大正五年四月廿八日 記録第二部接受

大正五年四月廿八日

大正五年四月廿八日記録第二部接受

3-2140

0026





通商局長 受7677号

附屬書類添附

大正五年七月十四日接受

通商第二課



機密第四号  
大正五年五月十八日

在里馬

領事 森安三郎



外務大臣岡野石井菊次郎殿

支那人癩病患者送還方圖案件

本件之因シテハ異表ニ貴電第5号ヲ以テ  
行下命ヲ蒙リタル際不取敢拙電第4  
号ヲ以テ及回報置候處當初主トシテ

大正五年七月十四日 記録第二部 接受

在外公館

本件ニ于獎セル者日通譯生ヨリ小官宛別  
紙報告書致提出候旨及進達候  
敬具

大正五年五月十六日

外務通譯生 春日 廓明 

在里馬

領事 森 安三郎 殿

支那人癩病患者送還ノ関スル件報告

四月二十日午前東洋汽船株式會社代理店在 外 公 館ク

レノス商會船艙課長ヨリ、先般未披露政  
府ヨリ香港行支那人癩病患者四名、紀洋丸  
乗船方交渉ヲ受ケタルニ、甘豫テ同會社乗港出  
張所、對シ可否照會中ニ處昨夜、如何ナル  
事情アルモ、義諾スルコト勿レト、回電ニ接シタルヲ  
以テ其旨ヲ當該衛生局長ニ通レ、乘船方ヲ  
拒絶シタルニ同局長ハ、右拒絶ノ場合ニハ、秘露  
政府ニ命令ヲ以テ右乗船方ノ紀洋丸ニ強行  
スルニ至ルベク、且右解決迄出港免狀ヲ發給シ差  
控エシト告ケ其態度強硬ナリシヨリ、今朝乘  
港出張所ニ宛其旨ヲ打電シ再考ヲ促シ置  
ケルが、此際何トカ穩使ノ事件ヲ落着シ一日モ  
早ク紀洋丸ヲ出港セシムル様領事能側於テ幹

旋、勞ノ執ラレ度旨依頼ニ接シタリ。依テ小官  
ハ同人ト合議、上(二十)二十日兩日、祭日、當リ且ツ  
時期切迫セル爲、芝崎書記生ト合議スル、機ヲ  
得ズ一應同局長、就キ非公式、事實、真  
相ヲ確メタル上、目下復活案ニテ諸官廳休  
業、際故、夜露政府主張、是非、就テ討  
議ノ重ヌルニ於テ、徒、時日ヲ遷延スルニ莫  
下、付一先、其解決ノ後日、讓、以テ純洋丸  
ノ可及的速、出港セシムル様取計方得策ナト  
意見ヲ定メ、小官、局長ヲ勸業省、討回セシ  
出勤シ居ラザリシモ、後テ同局長ヨリ會談ヲ希  
望スル旨、電話、接シ次テ領事官余ニ於テ  
其訪回ヲ受ケタリ

在外公館

局長ハ支那人癩病患者、送還方就テ、既ニ半ヶ月前  
ヨリ代理店ニ交渉ヲ開始セルモノナルガ、ハナマ地世帯ニ於  
ケル檢疫ノ簡易ナルヲ既ニ判明シ、又同一檢疫規則  
ヲ實施セル柔港モ亦同様ノ状況ナルニキヤナル、  
代理店、何等格別ノ理由ヲ説明スルコトナク依然  
乗船ヲ拒絕セリ、政府ハ法律ニヨリ右送還方ヲ  
命スルノ權アリト信ズトモ、實際貴下、盡力ニヨリ  
標使、乗船ノ承諾セシムルヲ能ハズヤト懇請  
スル所アリタリ

小官、之ニ對シ現ニ一名、日本人癩病患者又ラ  
猶米國方面ニ於ケル檢疫手續ノ面倒ナルニ慮  
シ、其乗船ヲ躊躇シ、ハナマ次弟ニテ殊ニ柔港  
出張所ヨリ拒絕、回電アリ名上ハ同方面ニ於テ

困難ナル事情存スルモト察シ得、實際遺憾  
ナカラシム領事館ト報勸告、餘地ナシ而シテ  
貴下、引用セラル、法律ト如何ナルモミテ且ツ其  
發布ノ年時如何ト反同セシ、局長、其發布ノ年  
時、即カ旧時ニ屬ストモ、亞細亞移民ニシテ上陸後癩  
病ノ發生シタル場合ニ之、到来セル船舶又、其所属  
汽船會社、他、船舶、之ノ送還スル、義務アリ  
云、規定アルモ、ミテ大統領、在ニテ之ヲ執行スル  
ニ權アリト認クル、予、予、汽船九甲板迄右患者  
ヲ移送スル所存ナリト明言セリ

小官、右法律文、島ノ請未、其承諾ノ得、  
ル後前、顯、方針、進テ右法律適用、  
當、不當、論争、直、下ノ總、東、語、頭、ヲ

在外公館

轉ニテ、假令、秘露政府が送還ノ強行セント  
スレモ、汽船丸、病室一個ノ有スル、ミニミテ之ヲ乗船  
セシルトキ、忽チ満員トナリ、萬一船内、他、傳染  
病發生スル場合ニ於テ、全然、船内衛生ヲ維  
持スル、下能ハズ、幾百ノ乗客及船員生命  
ニ安固ノ保障ヲ難キ次第ナルガ貴下、猶右乗  
船ノ強、下スルヤ、貴下、ミテ一應、船内、設備、ノ  
見、タ、トアラバ、予、マモ、テ、業、内、ノ、旁、ノ、執、ル、ニ、シ、  
患者ノ病勢、昨日、今、午、争、フ、程度、モ、ア、ラ、ザ、ル、ベ、シ  
實際到底實行シ難キ命令ヲ發セシ、予、  
ニ比較的良好ナル設備ノ有スル次回ノ安洋  
丸使遣、代理店ト協議、重、不、平、穩、裡、  
目的ノ達スル採取計ヲ得策ナラスヤ、



予モ亦相應中々ノ勞ノ辞セザレドモ詔キタルニ局長  
モ遂ニ小官ノ詔ヲ認定シ竹島長官トモ合議  
ニ上稟當ニ取計ソナスニトテ辞去セリ  
紀洋丸同日午後出帆ノ豫定ナリシモ船長代理  
岸下協議ニ出帆ノ翌朝迄延期シ柔港ヲ返  
電ヲ待ツト決セリ然レニ午後滞リ出港免  
狀ニ發給ヲ受ケタルモラベリ港ニ在ル積  
荷準備ノ為メ午後九時迄ヤ何役ノ續行シ  
翌二十日検査醫ノ臨船ヲ得十一時三十分  
ラベリ港ニ回テ無事出帆セリ即チ定期  
失ツテ一日ナリ

二十日午前本省ヨリ尤ノ電命ニ接シタリ

秋露政府ハ四月二十日カヤオレ出帆ノ紀洋丸

在外公館

ニ對シ香港行土邦人癩病患者四名ノ乗  
船セシメザレバ出港ノ許可セズト稱シ居ル為メ出  
帆運出ノ慮アルニミナラズ之ノ乗船セシムレ  
ハ米國移民法ヨリ同地寄港ノ際四百弗  
ノ罰金ノ科セラレ、且帝國領事ノ斡旋  
シテ上旨東洋汽船會社ヨリ願出タリ  
至多右事情調査ノ上不法ノ請未ナレ  
於テ之ヲ撤回セシムル必要ナル助力ノ同船  
ニ與ヘラレタリ

依テ小官ハ芝崎書記生ト相談ニ上直ニ衛生局  
長ヲ訪問シ秋露政府ガ紀洋丸ノ出港ノ許  
可セザラントセル事實アルヤニテハ高會ヨリ聞  
知セル趣ヲ告ゲ其弊明ク未ナタルニ局長頗シ



難色下り送還ノ件ラダレハ側ノ態度冷淡倨傲ナリシヨリ當方ニ言辭モ幾分過激ニ直ラレベキモ日本船ヲ抑留セントセシ事實ニ全然無根ナリテ百方陳辯ニ努メテ小官ハ前日引用セル法律文ノ一覽ノ要未セル直ニ之ニ應シ法規集ニ就キ搜索シ得タルモ容易ニ發見セズ然モ猶其存在ヲ明言セルヲ以テ小官ハ後日文書ヲ以テ之ヲ請未スニキ旨ヲ告ケ次チ右等四名ハ十年前一名ハ十年前ナリト答ヘタルヲ以テ東洋汽船會社ハ一九〇六年初季始メテ試驗的ニ南米航路ヲ開始セルモニテ當時よりテ香港秋露回ノ航海セルモ他數艘下

在外館

タル際ナレバ前記ト那人ガ果シテ東洋汽船會社ノ船舶ニヨリ到來セシモナルヤ事實調査ノ必要アリ且又予ノ聞ク所ニヨレバ右癩病患者ノ搭載シ北米ニ寄港スルニ於テハ四百弗ノ材料ニ處セラルニキ趣ナレバ現下ノ状況ヲ以テシテ乗船方困難ナル旨ヲ述ヘタルニ對シ局長東洋汽船會社ノ諸般ノ對シ右法律ヲ執行スルノ意志ナク米國側ノ於ケル困難ナル事情消滅セレ場合ニハ乗船方ハ盡力存之度旨ヲ申出タルヲ以テ差支ナキ旨ノ回答シ置キタリ午後芝崎書記生ト會議シ上本省右記ノ回電ヲ發送シタリ

貴電第五號ニ關シ秋露政府衛生局長

ガ移民運輸規則ノ根據トシテ紀洋丸使ヨリ香  
港迄ト邦人癩病患者四名ヲ送還シ代理店對  
シ命ゼンセレ形跡アレモ該船ノ出帆ノ差留メントセ  
ニ事莫ク確實ニ認メ難シ

該船ニ二十日午後既ニ當領事館ノ軒從ヨリ  
右患者ヲ搭載セバシテ出港免状ヲ得同九時積  
荷シテ翌朝十一時半出帆セ右患者送  
還ノ件ニ安洋丸使迄ニ兩當事者間ニ於テ  
無事解決ノ見込ナク右規則ニ因シテ調査  
ハ上部報ス

次テ小官ハ二十四日申ノ夕テ衛生局長ニ對シ法律  
五ノ島ノ請求スレ所ヲ二十九日ニ至リ別紙兩通  
二十日附回各ヲ接受セ

在外公館

右回各ニ添付セル法律ニ移住民健康證明書  
發給規則ニシテ單ニ上陸當時ニ於テ發見セ  
ラレタル癩病患者送還ニ義務ヲ規定セル止  
マシ衛生局長が前日未引用セル法律ナルモノハ  
事實ニ於テ存在セルモノアラズ畢竟其言責  
ヲ重セザル 叔露人ノ會社側ヲシテ乘船  
ノ餘儀チカラシメントスル餘ヲ右法律ノ存在ヲ  
輕信シ之ヲ明言シタルモ後日調査ノ末之ヲ察見  
シ能ハザルニ苦ニ 幸ウシテ健康證明書發給  
規則ヲ類似ノ規定ノ物色シ之ニ由解ラ施シ  
一時ヲ糊塗セントスルモノニシテ彼自ラ其非  
違ヲ認メタル結果ニ當向ニ該船ノ屬スル同會  
社ノ船舶ニ對シ右患者送還ニ義務ヲ認セ

ントスルモノアラハト陳解シ居ん次第ナリ  
小官ハ實際局長ノ以テ可認ノ態度ヲ  
示ス下ヲ避ケ五月四日付ノ以テ單ニ文書ノ領收  
ヲ報シ其外説ニ関シテ目下亞爾然丁國旅行  
中ナル帝國領事ニ傳達スヘキ旨ノ先リ之ヲ  
他日、留保シ置ケ

之ヲ要スル、秘露政府ニ今後再び強制的ニ  
右送還ノ目的ヲ達セントスル爲メ出ツルコトナカ  
ルベシト雖、使館各代理店、對シ直接同接  
ニ右乘船方ニ去涉シ来ルルヲ而シテカヤオト  
其他諸港ニ於ケル檢疫執行、振ニ自由、  
剛柔ノ手心ヲ加得ニキ彼等當局ガ上記自  
的ノ達セガ爲メ大奮興的手段ヲ執ルニ至ルベキ

在外公館

虞ハ秘露ノ如キ國情ニ地ニアリテ其絶無ノ保  
シ難キ次第ナルヲ以テ汽船會社例ニ於テモ政  
府ノ依頼ニ對シテ、親切好意ノ以テ之ニ應對  
シ慎重ノ考慮ヲ經テ事件トシ處理セントシ  
希望スルモノナリ

健康證明書發給規則原文、明治四十一年九月日  
付第三六号ノ原文ハ大正四年三月二十五日公第三号  
ニ添付セルモノト同様ニ之ノ旨略シ別紙衛生局長  
未翰寫及譯文相添付段及報告候教早

buques portadores de leproso á repatriarlos á su costa cuando esos enfermos son reconocidos antes del desembarque; pero si se atiende al espíritu de esa disposición, que tiene por objeto impedir la trasmisión de la lepra en nuestro país, donde no existe actualmente, i si se considera de otro lado, que la incubación de tal enfermedad puede durar muchos años, segun lo comprueban las observaciones de eminentes tratadistas, deberá convenirse en que es justo que este Despacho haya considerado desde que se expidió el decreto en referencia, que el artículo 8° obligaba á los capitanes ó armadores de los buques que hubieran traído al país inmigrantes en los que la lepra no existía en el momento del desembarque, pero que se reveló en ellos algún tiempo después, á repatriarlos no ya á sus expensas, sino previo el pago de su pasaje respectivo.

La aceptación de esa doctrina se impone, porque si solo se diera al artículo 8° en referencia su interpretación literal no se lograría el propósito que se ha tratado de obtener con él.

No obstante lo expuesto, como he tenido ocasión de manifestarle á UD. verbalmente, con motivo de la negativa de los agentes del vapor Xiyo Maru para que esa nave condujese cuatro leproso chinos á Hong Kong, esta Dirección no trata de imponer como obligación á las naves de la Compañía á que pertenece dicho vapor el transporte de los enfermos indicados, sino que sostiene que no hay inconveniente alguno desde el punto de vista sanitario, en atención á las condiciones epidemiológicas de la lepra, para que dicha Compañía consienta amistosamente en hacer ese trasporte, ya que como le he manifestado á UD. también, encierra un gran <sup>peñón para todas las personas la existencia en esta</sup> ciudad, así para los naturales del país como para los extranjeros, entre los cuales los miembros de la numerosa colina japonesa pueden ser los mas expuestos por razones que no se le ocultan.

Necesariamente, para que el transporte de los leproso de que trato

pueda ser hecho por la Compañía de navegación japonesa, hay que obviar las dificultades de orden sanitario que puedan presentarse en los puertos de Estados Unidos, muy particularmente en San Francisco, ya q' como sabe UD. en la zona americana del Canal de Panamá no se pone ningún obstáculo para que los vapores lleven en tránsito dichos enfermos. Recordándole nuestra conversación sobre este particular, me permito encargarle nuevamente que se sirva UD. interponer sus buenos oficios para que por parte de la Compañía se den <sup>facilidades</sup> felicitades para la realización de el propósito que persigue el Supremo Gobierno.

Expresando á UD. mi reconocimiento por las seguridades que me ha dado de interesarse en el sentido que dejo expuesto, me es muy grato presentar á UD. en esta oportunidad la expresión de mi distinguida consideración.

Dios gñe á UD.

A. S. Olachea

MINISTERIO DE FOMENTO

Dirección de Salubridad Pública

Lima, 28 de Abril de 1916.

Señor Secretario del Consulado del Japón

En contestación á su atento oficio de fecha 24 del presente en el que se sirve solicitar de este Despacho copia de la ley ó reglamento relativo á la obligación en que se encuentran las naves q'hubieren traído á nuestro país enfermos atacados de lepra de repatriar á dichos enfermos á su costa, me es grato remitir á US. un tomo del Registro Oficial de Fomento, correspondiente á esta Dirección i al segundo semestre del año 1906, en cuya página 149 se registra el decreto que reglamenta la expedición de los certificados de salud de que están obligados á proveerse en el puerto de embarque los inmigrantes que vengan al Perú.

Como verá US. el artículo 8° de dicho Reglamento dispone: "el inmigrante que llegase sin certificado, será repatriado á costa del capitán ó armador de la nave en el caso de que estuviera comprendido entre los que no tienen, segun los artículos anteriores, opción á certificado sanitario"; el artículo 1° señala entre los que no tienen opción á dicho pasaporte á los inmigrantes atacados de enfermedad crónica, trasmisible ó repugnante, i el artículo 2° considera como enfermedad de esa clase la lepra.

El Reglamento á que me refiero, como notará US., obliga á los

3-2140

0037

以書翰致終上候 殊者當國之癩病患者ノ到  
未シタル船舶ノ其員搭ノ以テ之ノ送還スルニ義務  
アリトシテ規定セル法規規ノ寫ノ當國ニ請未相成タル  
本月二十四日附貴信 對スル回答トシテ披露ニ到  
着スル移民カ上陸港ニ於テ提出スルニ健康證明  
書ノ發給ノ規定セル大統領令ノ第一四九頁ニ  
記録セル一九〇六年下半年期衛生局関係勅業  
省發布法規輯覽一部ノ及送付候  
貴覽ノ通シ該規則第八條ニ健康證明書ヲ  
携世セズシテ渡来スル移民ガ若シ前條ノ規定  
ニテ該健康證明書ノ得ルニ資格ナキ者ニ屬

在外公館

スル場合ニ船長又ハ船主ノ員搭ノ以テ歸國セシム  
ベシト規定セラレ且ツ第一條ニ健康證明書  
ヲ受クベキ資格ナキ者ノ外ノ傳染若シクニ癩病  
ニキ慢性病ニ犯サレタル移民ノ指示シテ猶第一  
條ノ於テ癩病ノ以テノ疾病ト見做シ居候  
該規則ガ癩病患者ノ上陸前認知セラレタル場  
合ニ於テ右運搬船ノ對シ其員搭ノ以テ之ノ歸  
國セシムルニ義務課スルモノナルトモ其下ノ認知  
ト通シ有之候得共右處置ノ精神ガ現ニ癩  
病ノ存在セザル當國ニ其傳播ノ防止スルノ目的  
ニテ(ヤマト)留意スルニ於テ而シテ又一方若者  
ナル者事向家ノ考察ニ立證スルニ處ニテ該病  
潛伏期ノ長ク月ナルニ鑑ミ當國ガ該法令

發布ノ當時ヨリテ第八條ノ以上陸際應  
病存在セザリト雖或時期後之ヲ發病スル  
至レル移民ノ到來シテシ船舶ノ船長又ハ船主  
對シテ其負擔ヲ以テセズシテ各船僣ノ前株ニ  
ヨリ之ヲ歸國セシムル義務ノ課セトスルモノナリト  
思考シ来レルハ蓋シ正當ナリトテ一致セザル  
ベカラズ候

若シ前記ノ第八條ノ對シ單ニ之句通ノ解釋  
ノ英フルト於テハ該規則ニテ得ントスル目的ノ達  
スルヲ能ハザルニキキテ右主義ノ適用ノ必要ト  
スル所以ノ有之候

是等ノ急洋丸ニテ上那人ノ癩病患者四名ノ香  
港ニ運送セトセシ對シ同汽船代理店ノ拒絕

在外公館

ノ蒙リタル機會ニ際シ本官ガ既ニ貴下ニ口頭  
ノ以テ言明シタル通、當局ノ該船ノ屬スル會社  
ノ諸船舶ノ對シ右患者運送ノ義務ノ課セ  
ントスルモノアラズニテ該會社ガ其運送ノ好意  
的ニ義務セトスル、當リテ癩病ノ傳染的狀  
態ニ鑑ミ衛生上ノ見解ヨリ何等ノ不使存  
在スルモノニテラザルモノノ主張スルモノ有之候、  
況ニヤ既ニ貴下ニ該キタル通、當局ニ於テ該患  
者ノ存在スルハ各人即チ當國人並ニ外國人  
トシテ大危險ノ包藏スルモノニテ然シテ又夥  
著ナル理由ニテモ外國人中許多ナル在留日本  
人が最モ多ク危險ニ接スベキ者ノモナルニ於テオヤ  
貴下、於テモ知ラル、如ク巴拿馬運河米國



地世、於テ、癩病患者ノ通過運送上何等  
ノ故障モ起ラザルベキヨリ、日本汽船會社ノ  
シテ前、癩病患者ノ運送セシムル為メ、必然的  
ニ各衆國ノ諸港、殊ニ宋港、於テ恙起スヘキ衛  
生命令ノ故障ヲ除去セザルベカラズ

本件、前スル吾人々會談ノ追懷セラレ且ツ  
最高政府ノホムル目的ノ實現セシムル為メ、會  
社側ヲ便宜ノ供與セラシ、様貴下ニ於テ、幹  
旋ノ勞ヲ執ラレシト、更ニ、熱望スルモノ存之候  
前途ノ意義、對シ貴下ノ干與ノ謝スルト  
共、茲ニ貴下ニ對シ敬意ノ表シ候

敬具

在外公館

千九百十六年四月二十八日

勸業省

衛生局長 アトモオラエチア

日本領事館

書記生殿

0040

3-2140